

氏名（本籍）	ミヤ シタ マリコ 宮 下 真理子（長野県）
学位の種類	博士（文化財）
学位記番号	博 美 第 175 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 24 日
学位論文等題目	〈作品〉東京芸術大学蔵 重要文化財「小野雪見御幸絵巻」（第二段～第四段）推定復元模写 〈論文〉「小野雪見御幸絵巻」の料紙と表現技法に関する研究—中世和紙の再現と錯簡・欠損の推定復元を中心として
論文等審査委員	
（主査）	東京芸術大学 教授（美術学部） 田 淵 俊 夫
（論文第 1 副査）	〃 客員教授（ 〃 ） 有 賀 祥 隆
（作品第 1 副査）	〃 教授（ 〃 ） 宮 廻 正 明
（副査）	〃 助教授（ 〃 ） 稲 葉 政 満

（論文内容の要旨）

『小野雪見御幸絵巻』とは

東京芸術大学所蔵・重要文化財「小野雪見御幸絵巻」（鎌倉中期頃 紙本著色）とは、寛治 5 年（1091）10月27日に白河院が小野の里に幽居する皇太后歎子のもとに雪見のために行幸したという実話に基づき、後の鎌倉時代に絵巻にしたものである。雪景あるいは雪見の遊覧は、平安朝以来のやまと絵の伝統的画題であり、本作品はその伝統に従って作画されているといえる。剥落や変色をはじめ、画面の損傷は著しいが、歴史的事実を絵画化し一巻完全に揃って現存する本作品は極めて貴重な資料である。錯簡・欠損も見受けられるが、独特な構図と特色ある作画モチーフ、雪という趣ある情景を、多彩な表現と巧みな技法で描かれた秀作といえる。

研究目的

本研究は「小野雪見御幸絵巻」の模写を通し、美術史的観点から述べられてきた欠損した図像や錯簡について、模写を通して古典技法・材料・基底材（和紙）等の解明を行う総合的な研究である。

オリジナルの本紙は文献資料^{*1}によれば楮紙と推定され、繊維は切断^{*2}されて短くなったものを用いており、簾の目も確認できる。また、抄紙方法も道具も現代の和紙とは異なる^{*3}と推測される。これより絵巻制作年代の紙漉きを把握した和紙作成が可能となり、その時代に合った紙を作成するところから研究をはじめめる。

紙自体を再現することで、制作時代の紙サイズの考察から欠損部分の充填・後世の切断箇所も容易になり、料紙の再現によって図像の再現が可能となる。

また紙本作品は、原料の違い・紙の加工方法（熟紙加工）によって紙質の違いが作品に顕著にあらわれる。そのため、模写をする場合、紙質の差異が完成度に大きく影響すると考えられる。古代の料紙は熟紙加工として打紙処理が施され^{*4}現代の生紙とは異なる。その打紙加工を施した再現料紙に模写することで作品の本質に迫る模写研究を行う。

模写は「現状推定模写」とし、絵巻の制作当初の姿を推定して制作するため、欠損部の補充、不必要な切断部の結合、錯簡の訂正、現状の紙サイズの変更を行い、絵巻制作当初の本来の姿を再現するものである。また、本作品が本学所蔵であるので、閲覧による調査や作品に関する研究環境が整っており、より作品に密着した研究が可能となる。

研究概要

紙の再現は、現存する和紙の中から選択するのではなく、和紙を古い時代の技術で漉くことを本研究では試みる。

まず絵巻の現状を実物・資料を通して調査する。絵の不必要な箇所での寸断や、欠損が多数あることから、現状調査と欠損観察をする。また『延喜式』や様々な文献より一紙の大きさを推定し、制作当初の抄紙実情を踏まえた料紙寸法を決定し、和紙再現の為の準備を行う。

中世和紙再現のポイントとして、諸文献（『延喜式』など）を参考にし、木灰にて煮熟し、溜漉きにするなど、製紙方法を古典的方法で行う。出来上がった再現紙を元に絵巻の各紙にサイズ照合行くと、寸断されていない状態や、欠損がなかった状態では紙はある一定のサイズであることが判明した。さらに、打紙加工を施し、墨がにじまない方法で描画する。また、絵の具の発色の差を調べるために、下地の処理（白土）についても様々な研究を行う。

料紙再現で一番重要な原料・繊維長の選定は、楮を主として、繊維長を変えて抄紙を行い^{*5}打紙処理した料紙を作成し、そのサンプル料紙を本紙の閲覧時に目視で選ぶための指標にする方法を取った。また、これに墨線描写し、その適正を判断する材料として、打紙処理したものとそうでないものの繊維長とにじみの関係を明確にし、出来上がった料紙それぞれの風合いや特徴などをまとめた。又、この紙の基礎的物性の測定も同時にデータとして残すようにした。このようにしてサンプル料紙・滲み止めデータを元に、オリジナルの原紙と熟覧にて比較してみたところ、その中から一番絵巻の模写に相応しい料紙が見つかった。再度その料紙を作りあげ、同様の熟紙加工を施し、模写用の料紙を完成させた。

また、錯簡箇所の訂正においては、文学的視点からも判断し、『今鏡』『十訓抄』『古今著聞集』に記載されている内容の照合も行う。模写では順不同である物語の順番を内容に合わせて並べ替え、現状の錯簡を訂正した順序立てとする。それに加え、欠損部の推定を行い、制作当初の画像を復元し、現状に即した色彩を施し模写を制作することで本来あるべき姿を提示する。即ち、材質面では原本と同素材・同技法で作成し、内容では物語の順を追って「本来の絵巻の姿」を鑑賞できる状態に再現することを目指す。

研究工程および概略

1. 「小野雪見御幸絵巻」の考察
資料調査と「小野雪見御幸絵巻」について
2. 中世の和紙再現
料紙調査と中世の和紙の再現制作の手法
3. 錯簡・欠損部分の画像復元
元の料紙サイズの考察による錯簡の訂正と欠損部分の復元
4. 模写制作
復元模写工程
5. 装潢
模写作品とその時代にあった装丁の手順
6. 総括

註

- *1 岡墨光堂 創業100周年記念「修復」創刊号 平成6年
- *2 保存科学第20号 製紙に関する古代技術の研究 大川昭典・増田勝彦 昭和53年
- *3 平成8年度国宝修理装潢師連盟定期研修会講演集 料紙の構造と組成について 大川昭典 平成8年
- *4 平成12年度国宝修理装潢師連盟定期研修会講演集 製紙法の今昔 久米康夫 平成12年

*5 平成15年(財)文化財保護振興財団研究助成を受け、平成15年9月29日～10月12日高知県立紙産業技術センターにて研修

〈主な参考文献〉

『改訂版上代倭絵全史』家永三郎 墨水書房 昭和41年／『日本絵巻大成19』小松茂美 中央公論社／『蔵品目録』絵画Ⅰ 東京藝術大学 昭和55年／『新修日本絵巻物全集17』宮次男 角川書店 昭和55年／『新潮 世界美術辞典』新潮社 昭和60年